

平成 23 年度文学研究科共同研究経費申請書

研究代表者 (申請者)氏名	加藤 浩	専門分野・ コース名	文芸学	職名	准教授
研究課題名	神話表象のアレゴリズム研究—文学・哲学・レトリックに即して—				
<p><b>研究目的</b>          [研究の目的、その意義と予想される成果、新規科研費獲得に向けた準備状況などを記入してください。昨年度科研費を申請して不採択になった場合は、研究継続・再申請準備状況も記入してください。]</p>					
<p><b>研究の目的</b> 神話表象はしばしばアレゴリーとして表現されると同時に、アレゴリーとして解釈されることを求める。本研究は、インドおよびヨーロッパの神話表象を、アレゴリー表現とアレゴリー解釈という相互補完的視座（アレゴリズム）から再記述し、神話表象に随伴するアレゴリー性の言語的規制力を分野横断的に照射することを目的とする。</p>					
<p><b>研究の意義</b> <u>1.</u>アレゴリーの語源であるアレゴリアーは、語っていることとは別のことを意味する、ということを経典とする。本研究は、まずレトリック理論に基づいてアレゴリーの語義に関しての基礎的概念規定を行う。もとより、アレゴリーの語義は歴史の変遷を閲する。本研究では、この語が使用される文脈に注目し、その通時的・共時的な意味を明らかにする。この作業は、アレゴリアーと同義的に用いられる、例えばヒュポノイアーやシュンボロンなどの重要語についての考察に接続し、文化史的な意味連関を構築する。<u>2.</u>次に、この成果を共有しつつ具体的な神話表象の分析に向かう。<u>2-1.</u>古代ギリシアでは、ホメロスとヘシオドスの叙事詩とともに始まるアレゴリー表現を解明するとともに、初期アレゴリストから出発し、神話のアレゴリー解釈に対するプラトンの否定的な立場を経て、ヘラクレイトスや偽プルタルコスのアレゴリー的著作、コルヌトゥスに代表されるストア派の神話解釈、ポルピュリオスとプロクロスに代表される新プラトン学派の形而上学的神話解釈を精査する。<u>2-2.</u>古代ローマでは、キケロにおけるアレゴリー解釈、ウェルギリウス、ホラティウス、オウィディウス、アプレイユスのアレゴリー表現およびアレゴリー解釈の実相を解明する。<u>2-3.</u>ユダヤ=キリスト教世界では、聖書のアレゴリー解釈の伝統を、ピロン、オリゲネス、アウグスティヌスにおいて追尋する。<u>2-4.</u>インド関係では、インド学及び仏教学の文献資料より本共同研究にとって重要性の高い神話を吟味・選別し、インドの文献研究の伝統にも配慮しながら、それらをギリシア・ラテンと共通の言語・概念を使って分析にかける。インド学からは、代表的な祭式文献資料であるサンヒター、ブラーフマナ（前 1200～800 年頃）から後の叙事詩「マハーバーラタ」やブラーナ文献まで広がる、諸神話のパラレル群を想定している。<u>3.</u>このように、個別的神話表象をアレゴリーという視点から分析することは、それらの相互の同質性と異質性を同時に浮き彫りにし、かつまた、神話表象全般についてもそれらに通底するものと派生的なものとを弁別するという積極的意義を担っている。</p>					
<p><b>予想される成果</b> 神話表象の多層的意味層がアレゴリーという結節点において収斂することで、錯綜とした神話表象の記述に原理的な展望をもたらすことが可能になるものと期待される。</p>					
<p><b>新規科研費獲得に向けた準備状況</b> 昨年、加藤浩は、挑戦的萌芽研究に申請を出したが不採択であったため、今年度は基盤研究(B)に「新プラトン学派の詩学の再構築」と題する申請を出す。この申請は、昨年度の文学研究科共同研究の成果を踏まえ、特にプロクロスの神話解釈の内に、ミーメーシスからシュンボロンへの推移を認め、古代ポイエーシス理論史を再記述することを試みる内容のものであり、従って、本研究と密接に連絡している。また、内田次信は、基盤研究(B)に「ギリシア・ローマ神話のアレゴリズム研究—文学・哲学・レトリックに即して—」と題する申請を出す。この申請は、とりわけギリシア・ローマ神話に視点を特化したものであり、本研究の文字通りエッセンスとも言うべき内容のものである。</p>					

## 研究計画・方法

〔研究計画・方法を具体的かつ詳細に記述してください。また、研究経費（4ページに内訳を記載）の必要性・妥当性を明確にしてください。〕

**研究会の開催** 本研究の目的を遂行するために、4回の研究会を開催する。

**第1回目**の研究会では、神話表象のアレゴリズムに関する基調報告を行った後、レトリック理論に基づいてアレゴリーの基礎的概念規定を試み、研究組織内部における了解事項の確認をする。デメトリオス、キケロ、クインティリアヌスなどを主として取り上げ、あわせてクインティリアヌスについては『弁論家の教育』の翻訳を準備する。インド哲学の研究分担者は、インド学及び仏教学の分野からどのような方法で他のメンバーと関心・目的を共有できるかを、具体的な文献資料に照らし合わせながら議論・提案する場にする。

**第2回目**の研究会では、表現としてのアレゴリズムをテーマに設定する。文学では、ホメロスとヘシオドス、ウェルギリウスとオウィディウスを対照的に取り上げ、作品におけるその意味と機能を究明する。哲学では、プラトンの神話を中心的に取り上げ、そのアレゴリー性が対話篇において果たす機能を検討するとともに、それが文学における神話といかに通底しているのかを討議する。インド学または仏教学の分野からは、第1回研究会において決定した方向性に基づき、特定の神話について網羅的な資料（テキスト、翻訳、先行研究）を用意する。そして研究班の共通のコンテキストの中で論点を明確にし、議論・考察へと進む。

**第3回目**の研究会では、解釈としてのアレゴリズムをテーマに設定する。文学では、特にホメロスのアレゴリー解釈史を跡付け、あわせてコルヌトゥス『ギリシア神話必携』、ヘラクレイトス『ホメロス問題』、ポルピュリオス『ニュンペの洞窟について』、プロクロス『プラトン『国家』註解』の翻訳を準備する。哲学では、プラトンの神話に関するプロクロスによる解釈を取り上げ、ホメロスとプラトンが本源において一致調和しているとする新プラトン主義的命題の妥当性を検討する。インド学または仏教学の分野においては、第2回研究会と同様の手順で議論構築に取り組む。

**第4回目**の研究会では、これまでの研究会の成果を総括するべく、神話表象のアレゴリズムをテーマに設定する。表現および解釈としてのアレゴリズムを統一的に把握するための視点を探るとともに、インドおよびヨーロッパの神話表象群を総合的に記述するための方法論について討議する。

**基礎的文献の収集** 本研究を実効性のあるものとするために、大阪大学には所蔵されていないアレゴリズム関連の基礎的文献を購入して、その欠を補う。

**研究成果の発表** 本研究に関連する学会・研究会において研究成果を発表する。既に発表・報告が決定しているもの、ないしは発表のための準備を進めているものは、以下の通りである。加藤浩は9月に上智大学で開催される第18回新プラトン主義協会大会で発表することが決定している。里中俊介は、7月に神戸女学院大学で開催される文芸学研究における発表が決定しているうえ、10月東北大学で開催される第62回美学会全国大会において発表するための準備を進めている。堂山英次郎は、9月に龍谷大学で行われる日本印度学仏教学会での発表、及び同じく9月にルーマニアで開催される国際ヴェーダ学ワークショップにおける招待発表が決定している。

**研究成果報告書** 2012年3月に、本研究の総括として、研究成果報告書を刊行する。その経費として、印刷製本費を支出する。

## 研究組織

氏名	年齢	所属機関・部局・職名	専門分野
加藤 浩	*	文学研究科・准教授	西洋古代哲学
内田次信	*	文学研究科・教授	西洋古典文学
上倉庸敬	*	文学研究科・教授	美学
榎本文雄	*	文学研究科・教授	インド哲学
堂山英次郎	*	文学研究科・講師	インド学
渡辺浩司	*	文学研究科・助教	レトリック理論
戸高和弘	*	文学研究科・非常勤講師	レトリック理論
西井 奨	*	京都大学・学振特別研究員	西洋古典文学
里中俊介	*	文学研究科・博士後期課程	西洋古代哲学

※1行目に研究代表者（申請者）を記入してください。

※本学関係者については所属機関（「大阪大学」）は省略してください。

## 研究スケジュール

時期	内容
H.23.7.	第1回研究会 基調報告（加藤浩）「神話表象のアレゴリズム研究序論」 文芸学研究会 発表（里中俊介）
H.23.9.	第18回新プラトン主義協会大会 発表（加藤浩） 日本印度学仏教学会・国際ヴェーダ学ワークショップ 発表（堂山英次郎）
H.23.10.	第62回美学会全国大会 発表（里中俊介） 第2回研究会 「表現としてのアレゴリズム」
H.23.12.	第3回研究会 「解釈としてのアレゴリズム」
H.24.1.	第5回ギリシア・ローマ神話学研究会
H.24.2.	第4回研究会 「神話表象のアレゴリズム」
H.24.3.	研究成果報告書刊行